



## 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月7日

上場会社名 テイカ株式会社  
 コード番号 4027 URL <http://www.tayca.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 名木田 正男  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 山崎 博史  
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日 配当支払開始予定日 平成30年12月4日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 06-6208-6404

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	23,392	12.6	3,139	4.0	3,318	1.5	2,253	3.3
30年3月期第2四半期	20,769	13.7	3,270	18.2	3,367	23.6	2,329	22.8

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 1,619百万円 (54.0%) 30年3月期第2四半期 3,522百万円 (44.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	95.86	
30年3月期第2四半期	99.08	

平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	59,992	44,331	73.4	1,873.30
30年3月期	58,843	43,043	72.7	1,819.24

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 44,040百万円 30年3月期 42,771百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		7.00		14.00	
31年3月期		16.00			
31年3月期(予想)				16.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。平成30年3月期の年間配当金につきましては、当該株式併合の影響を考慮し、合計は「-」として記載しております。

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	17.6	6,400	5.9	6,500	6.4	4,200	15.9	178.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	25,714,414 株	30年3月期	25,714,414 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	2,204,930 株	30年3月期	2,203,939 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	23,509,904 株	30年3月期2Q	23,513,224 株

平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、期中平均株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用環境や企業収益の改善を背景に、設備投資の増加や個人消費の持ち直しなどの動きが見られ、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、相次ぐ自然災害による影響や米中間での貿易摩擦の激化などにより、景気の先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社グループは国内外での新規市場の開拓や既存取引先との関係強化などを積極的に推進するとともに、経営全般にわたる効率化を推進し、収益の向上に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、今年1月に子会社化しました米国T R S社及びテイカタイランドやテイカベトナムなどの連結子会社の売上増が寄与しましたこと、機能性用途の微粒子酸化チタンや表面処理製品の販売が引き続き好調に推移しましたことなどにより、売上高は233億9千2百万円（前年同期比12.6%増）となりました。利益面では、主にチタン鉱石や原燃料に係わる製造原価の上昇などにより、営業利益は31億3千9百万円（前年同期比4.0%減）、経常利益は33億1千8百万円（前年同期比1.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は22億5千3百万円（前年同期比3.3%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の概況は次のとおりであります。（添付資料の9ページ「セグメント情報」をご参照ください）

#### 酸化チタン関連事業

汎用用途の酸化チタンは、国内の塗料向けが自然災害の影響などにより、販売数量は減少しましたが、世界的な需給逼迫状態にあるなか、輸出は堅調に推移し、売上高は前期並となりました。

機能性用途の微粒子酸化チタン、表面処理製品は、化粧品向けのインバウンド需要や輸出が好調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。

以上の結果、当事業の売上高は119億6千6百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

#### その他事業

界面活性剤は、国内の販売数量は前期並となりましたが、海外の連結子会社の販売は好調に推移し、売上高は前期を上回りました。

硫酸は販売数量、売上高ともに前期並を維持しました。

無公害防錆顔料は、国内の販売数量は前期並となりましたが、輸出は好調に推移し、売上高は前期を上回りました。

導電性高分子薬剤はコンデンサ向けの販売が好調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。

倉庫業は運賃収入が増加したことなどにより、売上高は前期を上回りました。

圧電材料は医療機器向けの販売が堅調に推移し、また当期から米国T R S社の売上も寄与したことにより、売上高は前期を上回りました。

以上の結果、当事業の売上高は114億2千5百万円（前年同期比19.2%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産総額は、599億9千2百万円（前連結会計年度末比11億4千8百万円増加）となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が11億2百万円増加したことによりです。

負債合計は、156億6千万円（前連結会計年度末比1億3千9百万円減少）となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が2億1千5百万円減少したことによりです。

純資産合計は、443億3千1百万円（前連結会計年度末比12億8千7百万円増加）となりました。これは主に、利益剰余金が19億2千4百万円増加し、その他有価証券評価差額金が5億1千8百万円減少したことによりです。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、営業活動によるキャッシュ・フローが、14億8千9百万円の収入（前年同期比5億7百万円収入額の減少）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益32億7千3百万円、売上債権の増加額11億7千4百万円、たな卸資産の増加額5億5千1百万円によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、12億9千万円の支出（前年同期比2億3千5百万円支出額の減少）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出10億2千7百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、10億3千9百万円の支出（前年同期比7億1千8百万円支出額の増加）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出8億5千9百万円によるものであります。

この結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より8億4千8百万円減少し、102億3千8百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年5月11日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,165	10,317
受取手形及び売掛金	13,381	14,484
商品及び製品	4,668	5,116
仕掛品	731	615
原材料及び貯蔵品	3,239	3,427
その他	447	394
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	33,630	34,353
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,316	4,208
機械装置及び運搬具(純額)	4,790	4,800
その他(純額)	2,017	3,137
有形固定資産合計	11,123	12,145
無形固定資産		
のれん	2,393	2,225
その他	58	74
無形固定資産合計	2,452	2,299
投資その他の資産		
投資有価証券	10,956	10,218
その他	704	998
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	11,636	11,193
固定資産合計	25,212	25,638
資産合計	58,843	59,992

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,234	5,018
短期借入金	1,780	937
未払法人税等	1,084	1,030
賞与引当金	381	394
その他	2,538	3,453
流動負債合計	11,020	10,834
固定負債		
長期借入金	35	154
環境対策引当金	1	1
退職給付に係る負債	3,230	3,248
その他	1,511	1,421
固定負債合計	4,779	4,825
負債合計	15,800	15,660
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,855	9,855
資本剰余金	6,766	6,766
利益剰余金	22,217	24,142
自己株式	△1,788	△1,790
株主資本合計	37,052	38,974
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,716	5,197
繰延ヘッジ損益	11	96
為替換算調整勘定	205	△24
退職給付に係る調整累計額	△213	△203
その他の包括利益累計額合計	5,718	5,065
非支配株主持分	272	291
純資産合計	43,043	44,331
負債純資産合計	58,843	59,992

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	20,769	23,392
売上原価	14,684	17,208
売上総利益	6,084	6,183
販売費及び一般管理費	2,813	3,043
営業利益	3,270	3,139
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	95	119
為替差益	4	71
その他	23	16
営業外収益合計	126	209
営業外費用		
支払利息	13	22
その他	16	9
営業外費用合計	30	31
経常利益	3,367	3,318
特別損失		
固定資産除却損	60	44
特別損失合計	60	44
税金等調整前四半期純利益	3,306	3,273
法人税、住民税及び事業税	998	962
法人税等調整額	△34	29
法人税等合計	963	991
四半期純利益	2,343	2,281
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	28
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,329	2,253

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純利益	2,343	2,281
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,184	△518
繰延ヘッジ損益	28	85
為替換算調整勘定	△41	△239
退職給付に係る調整額	8	9
その他の包括利益合計	1,179	△662
四半期包括利益	3,522	1,619
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,505	1,600
非支配株主に係る四半期包括利益	16	18

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,306	3,273
減価償却費	934	935
のれん償却額	—	117
受取利息及び受取配当金	△98	△121
支払利息	13	22
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,614	△1,174
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△455	△551
仕入債務の増減額 (△は減少)	842	△155
その他	△81	△31
小計	2,848	2,314
利息及び配当金の受取額	98	121
利息の支払額	△13	△22
法人税等の支払額	△935	△924
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,997	1,489
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,477	△1,027
投資有価証券の取得による支出	△5	△5
その他	△43	△257
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,526	△1,290
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	231	△12
長期借入れによる収入	—	176
長期借入金の返済による支出	△280	△859
非支配株主からの払込みによる収入	25	—
自己株式の取得による支出	△4	△2
配当金の支払額	△281	△327
その他	△10	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△321	△1,039
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	147	△848
現金及び現金同等物の期首残高	12,614	11,086
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,761	10,238

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	酸化チタン 関連事業	その他 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,185	9,583	20,769	—	20,769
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	256	256	(256)	—
計	11,185	9,840	21,025	(256)	20,769
セグメント利益	2,233	1,033	3,267	3	3,270

(注) 1. セグメント利益の調整額3百万円は、セグメント間取引消去額によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	酸化チタン 関連事業	その他 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,966	11,425	23,392	—	23,392
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	291	291	(291)	—
計	11,966	11,717	23,683	(291)	23,392
セグメント利益	1,991	1,149	3,140	(1)	3,139

(注) 1. セグメント利益の調整額△1百万円は、セグメント間取引消去額によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。